

空き地を活用したコミュニティガーデンの価値とその創出要因の解明 —学生と住民の協働による「よしひさえん」を事例として—

Clarifying the Value of Community Gardens Utilizing Vacant Lot and the Factors that Contribute Their Creation

-A case of Yoshihisaen by collaboration between students and residents-

まちづくり/論文

大学院 人文社会芸術総合研究科

重山 隼人

Shigeyama Hayato

●研究背景と目的

近年、地方部の空き地の増加に伴う、生活環境の悪化に対処する解決策として、空き地をコミュニティガーデン(以下、CG)として農的に活用する動きがみられる。CGとは、住民が協働で空き地などを緑地化し、継続的に維持・管理しながら近隣住民に開放する「みんなの庭」とされる。

CGによって生まれる価値を個人と地域の両面から網羅的に把握し、その価値を生み出す活動や体験といった要因を詳細に分析した研究はみられず、未だ研究の蓄積段階であると考えられる。

本研究では、学生と住民の協働による地方部の空き地を活用したCGを対象に個人と地域に対する価値を網羅的に解明し、その創出要因を分析する。それにより、学生と住民の協働による地方部での空き地を活用したCGの価値創出を図る上での有用な知見を得ることを目的とした。

●研究方法

(1)研究対象地

本研究では、学生と住民の協働による地方部の空き地を活用した「よしひさえん」の活動を研究対象とした。よしひさえんは、富山県高岡市吉久にある空き地を農的活用し、継続的に維持・管理しながら、地域の休憩所や園芸体験の場として周辺住民に開放しているCGである。

(2)調査方法

本研究では、①観察調査と②ヒアリング調査を行った。①では筆者自身がよしひさえんでの活動に参加し、随時、活動内容を写真撮影した。②では2023年度の活動終了後に参加者11名(学生2名、住民9名)に対して、半構造化インタビューを行った。

(3)分析方法

本研究では、見出される価値を網羅的に把握するために、戦略的経験価値モジュール(以下、SEM理論)の概念に着目し、よしひさえんにおける経験価値(以下、EVY)を定義した。また、EVYをもとに対象者を類型化し、各類型とEVYとその創出要因、役割などとの関係性を比較分析した。

●結果・考察

(1)創出価値の網羅的な解明と協働や交流の機会創出や仕組みづくりの重要性

よしひさえんから生まれている個人と地域の両面に対する価値とその創出要因を整理し、35種のEVYと15種の創出要因を明らかにした。その中でも{活動の楽しさ}、{活動からの学び}、{関係性向上価値}、{継続意向}といったEVYは多くの対象者が得ており、その創出要因としては、《園芸活動》や《交流》、《協働》が共通してみられた。このことから、空き地を活用したCGの活動計画を立てる際には、園芸活動を通して積極的な協働や交流の機会

創出や仕組みづくりが価値創出において重要であると考えられる。

(2)住民に対する学生との協働効果

学生と住民が協働したことによって、より責任感を持って活動に取り組む住民の行動変容がみられた。また、住民から確認された{自己成長}は学生との協働により創出された。以上より、学生と住民という異なる属性との協働によって、{自己成長}、{活動の責任感・緊張感}、{行動変容}といった価値が創出されることが示唆された。

(3)普段は当番活動しかしていない対象者に対するイベントや協働の機会創出の有効性

全体的にEVYの創出数が少なく、価値の対象に特徴がそれほどみられない【全体価値低群】においては、《イベント・収穫祭》や《協働》が{活動の楽しさ}や{関係性向上価値}の要因になっている対象者が多かったことや、当番活動以外の役割をほとんど担っていなかったことから、イベントの開催や協働機会の創出によって、普段は当番活動のみを担っている対象者に楽しさや関係性向上などの価値を提供できると考えられる。

(4)CGを継続する上でバランス良く役割を担うことの重要性

よしひさえんは、全体企画や環境づくり、定例会などの役割を担っていた【全体価値高群個人志向型】、園芸に特化した専門的な役割を担っていた【RELATE高群地域志向型】、当番活動といった、少ない負担で活動に関わっていた【全体価値低群】の3類型で活動が運営されていることが明らかになった。特に担った役割が少なかった【全体価値低群】において、{継続意向}が多く見られたことから、一部に負担が偏ることなく多様な役割を参加者間でバランス良く担うことや少ない負担でも活動に参加できることがCGを継続させる上で重要であることが示唆された。

(5)学生に対する場所への愛着醸成

全体的にEVYの創出数が多く、個人に対するEVYを多く見出している【全体価値高群個人志向型】は、学生のみで構成されており、特に学生に対して、そこでの園芸活動やその活動を通して何度も訪れることによって、その場所への愛着が醸成されることを明らかにした。本知見は、学生に対するCGへの参加促進や空き地を活用したCGの価値創出において有用な知見である。

●結論

本研究によって、今後人口減少に伴って増加が見込まれる地方部の空き地の有効な活用方法として、地域内外に関係なく、学生と住民が協働し、農的活用を行うことの有効性が示唆された。対象は1事例であるため、さらなる事例調査が必要ではあるが、CGの創出価値の全体像を明らかにしたことは、今後地方部でCGを展開していく上で貴重な資料となる。特に、参加者の属性に応じた価値を創出したり、目的に応じた活動計画を立てたりする上で有用な知見を得られたと考えられる。今後は調査対象者と研究対象の拡大が課題であり、展望である。

分析方法の補足

本研究で着目した戦略的経験価値モジュール (Strategic Experiential Modules) 理論 (以下、SEM 理論) は、近年、企業のマーケティング戦略の立案の際に用いられ、経験価値、つまり、「消費者の購買行動に価値ある経験が付加されることで、いかに消費者の満足感や購買意欲が高まるか」を分析するためのフレームとされる。これは「感覚的経験価値 (SENSE)」、「情緒的経験価値 (FEEL)」、「創造的・認知的経験価値 (THINK)」、「準拠集団や文化との関連づけに関わる経験価値 (RELATE)」、「肉体的経験価値とライフスタイル全般に関わる経験価値 (ACT)」の 5 つのタイプがあるとされる。また、経験価値は「顧客が企業やブランドとの接点において、実際に肌で何かを感じたり、感動したりすることにより、顧客の感性や感覚に訴えかける価値のこと」であり、よしひさえんにおける経験価値を「被調査者がよしひさえんでの活動や体験において、実際に肌で何かを感じたり、感動したりすることにより、被調査者の感性や感覚に訴えかける価値」(Experiential Values of Yoshihisaen、以下、EVY) と定義した。また、SEM 理論の各経験価値のタイプを踏まえて、感覚 (SENSE)、感情 (FEEL)、学びや解釈 (THINK)、紐帯 (RELATE)、行動変容 (ACT) という 5 つの EVY のタイプを定義し (図 1)、分析を行った。

研究成果の補足

よしひさえんから生まれている個人と地域の両面に対する価値とその創出要因を整理した結果の全体像を図 2 に示す。なお、EVY のカテゴリは {}、EVY の創出要因のカテゴリは《》で示した。35 種の EVY と 15 種の創出要因を明らかにしたが、中でも、{場所への愛着}、{活動への好奇心}、{活動の責任感・緊張感}、{自信に繋がる場}、{認知度が高い場}、{自己探究・自己実現の場}、{行動変容}、{継続意向} の 8 種の価値はこれまでの CG に関する既往研究では、言及されていない価値であった。特に、{行動変容} では、CG が住民の外出促進や地域の SC 醸成に繋がることが確認された。以上より、学生と住民の協働による空き地を活用した CG における個人と地域に対する価値とその創出要因を網羅的に解明することができたと考えられる。

EVY のタイプ	SEM の知見に基づいた類型化の判断基準
感覚 (SENSE)	よしひさえんでの経験を通して、視覚、聴覚などの五感で感じたことや体で感じたこと
感情 (FEEL)	よしひさえんでの経験を通じて生まれた感情
学びや解釈 (THINK)	よしひさえんでの経験を通じた学びやよしひさえんに対する解釈
紐帯 (RELATE)	よしひさえんでの経験を通じて感じた他者やまちとの繋がりや結びつき
行動変容 (ACT)	よしひさえんでの経験を通じた暮らしにおける行動変容や今後の関わり方

図 1 よしひさえんにおける経験価値 (EVY) のタイプとその判断基準

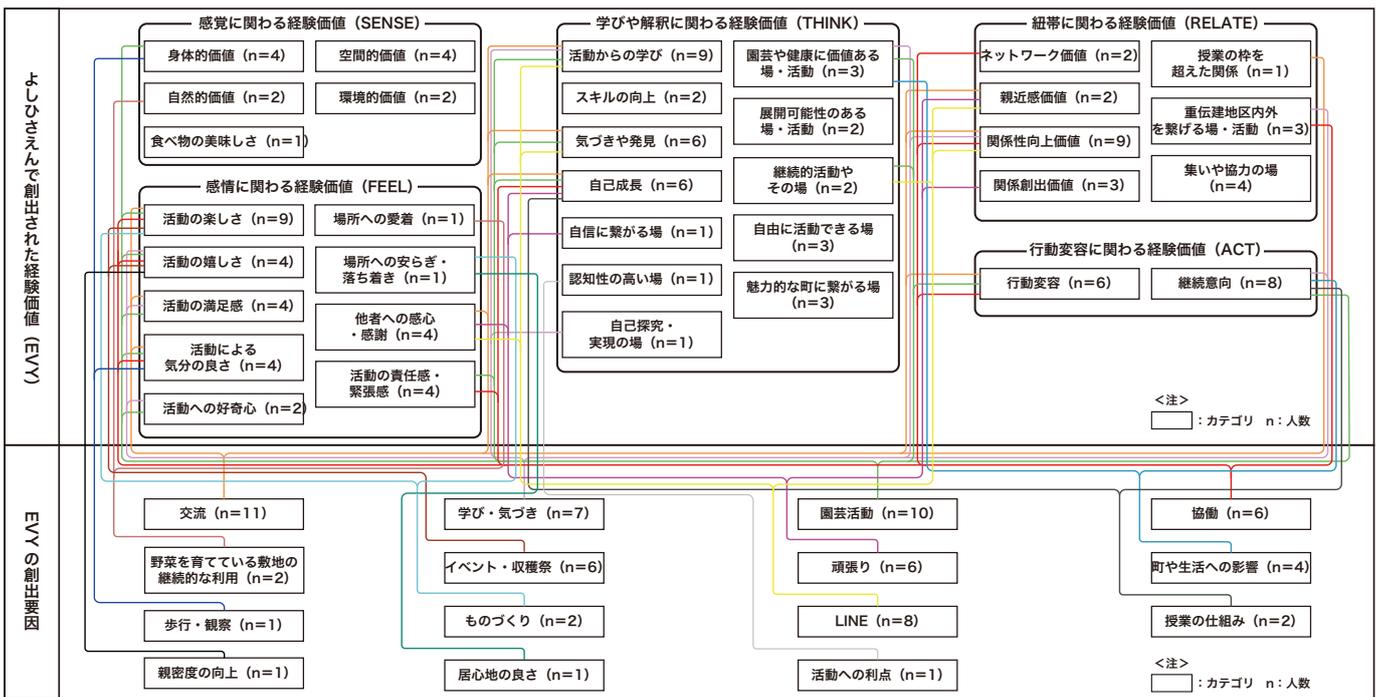


図 2 EVY とその創出要因の全体像